

令和3年度

第 1 回 木 更 津 市 史 編 集 委 員 会

1. 委員長あいさつ
2. 教育長あいさつ
3. 教育委員会職員紹介
4. 議題 木更津市史編さん事業の再検証について
5. 報告事項

議題

議題 木更津市史編さん事業の再検証について

前回の木更津市史編集委員会において『民俗調査報告書』1の刊行見合わせと、刊行（発行）方法をデジタル媒体にすることを協議した。

木更津市史編さん事業は、木更津市史編集基本構想及び基本方針（平成27年3月）の策定から6年を経過したことから、新型コロナウイルス感染症により事業への影響が出ていることから、市史編さん事業について再検証して刊行計画全体を見直したい。

【現在の木更津市史編さん状況】

新型コロナウイルス感染症対策として令和3年1月から緊急事態宣言が発令され、市史編集部会の調査活動を制限していたが、緊急事態宣言による制限期間の延長により、全ての市史編集部会の活動に影響が出ている。また、令和3年度以降の税収減少が見込まれるため、事業計画を検証して予算措置の大幅な見直し（縮減）を図る必要がある。

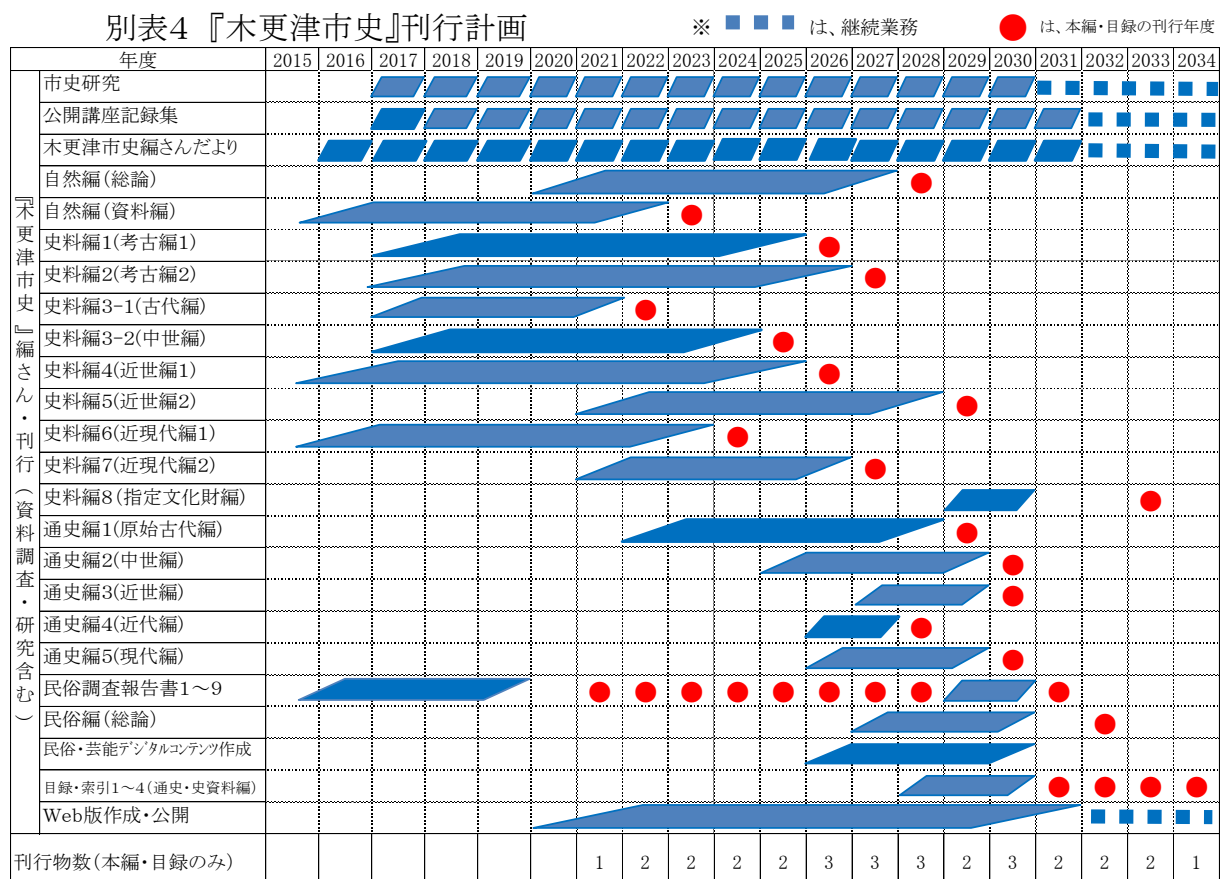
【見直し案】

- ①『民俗調査報告書』は、地区（旧町村）別に9冊刊行予定であったが、複数の地区をまとめて掲載して2～3冊程度に減じ、コロナ禍での市史編集部会活動のリスク軽減と、経費の縮減を図る。
- ②その他の刊行物については、部会長会議を開催して意見を伺い、木更津市史編集基本構想及び基本方針に反映する。
- ③「木更津市史編集部会」の組織名を「木更津市史編さん部会」に改める。

改正理由：「木更津市史編集委員会」と「木更津市史編集部会」の組織名を明確にするため。

《資料》木更津市史編集部会の活動状況（令和2年1月～令和2年12月） ※別紙

現在の刊行計画 ※下記



報告事項

1 令和2年度刊行物

『木更津市史編さんだより』第5号（令和2年11月1日発行）

『木更津市史編さんだより』号外（令和2年11月1日発行）

『木更津市史研究』第4号（令和3年3月31日発行）

木更津市史編集委員会

[illegible]

木更津市史編さん民俗部会関係の今後の活動と刊行計画変更について

(2021 年 3 月編集委員会提出)

民俗部会長 和田健

1. 刊行計画変更作業の見直し

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、収束の目途が現段階では立たないことから、これまでの刊行計画変更作業の見直しを図りたい、と民俗部会では考えている。

これまで刊行計画の変更作業について、事務局から提案された編集事業最初のタイムテーブルではかなり無理があること（例えば連続して毎年 8 冊の報告書を刊行計画に入れていることなど。2 頁目参照）は、民俗部会内で意見を共有してきた。そのため 2020 年度では民俗部会内では刊行計画の変更作業を行う準備をしてきた。

しかしながら刊行計画の変更作業は、今後の感染状況により、変更計画を定めても、再び変えざるを得ない可能性も高い。そのためいったん当初の刊行計画変更の検討を保留し、感染状況を見て、改めて現在の刊行計画変更の検討を行う。見直しの検討時期は、現段階では確定できないが、感染状況が沈静化するならば 2021 年度中に行い、2023 年度に 1 冊目の報告書刊行が可能なように準備をしたい。

2. 理由

・現在、直接の対面式聞き取り調査は大変困難である。部会員全体がそのように考えている。民俗調査の場合、高齢の方にお話を聞く場面を想定しているので、感染拡大させない方策を考えるならば、対面調査は行うべきではないと考えている。

・Zoom などのリモートでの対面調査も検討したが、通信環境の整ったところでの準備が必要であり、話者に公民館等に足を運んでいただくことや事務局職員の準備作業量と考えた場合、恒常的にこの方法をとることは困難である。

・最初の刊行予定である報告書「木更津地区の民俗調査報告書」の刊行も 2021 年度に延期したが、聞き取り調査ができない現状ではかなり難しいであろう。2020 年 2 月 14 日以降対面調査は実施していない。

・今後予算が大幅に減額される見込みであるとともに、調査地区変更の計画見直しも、沈静化しない限り、手を付けるべき道筋が定まらない。

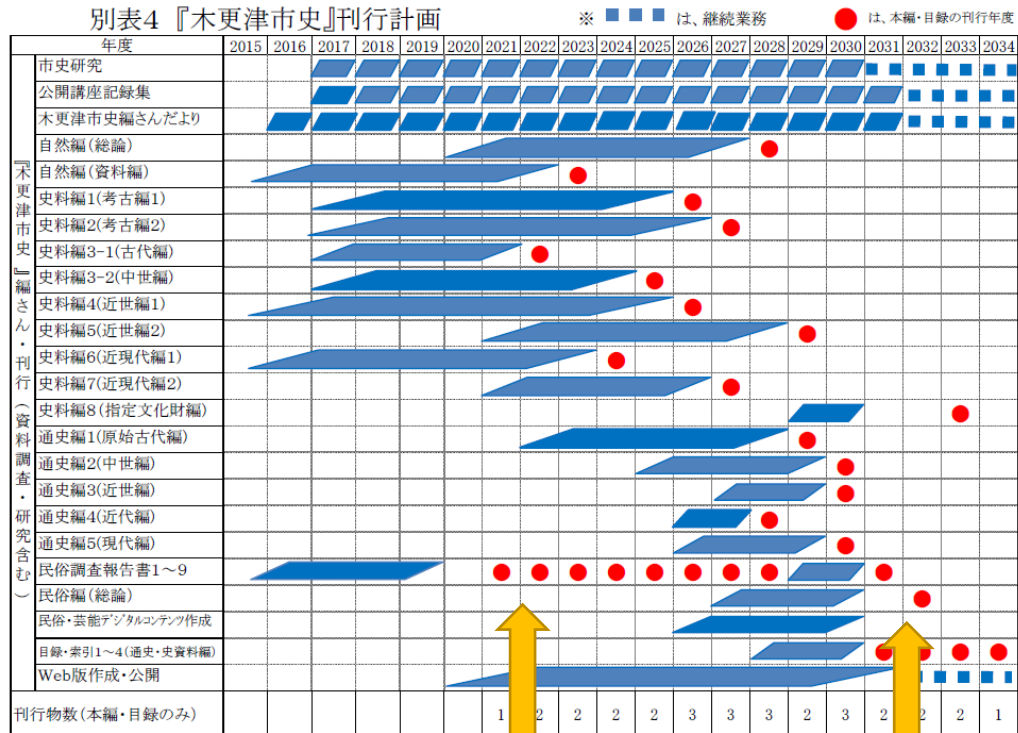
3. 今後の活動について

・策定されている刊行計画は、対面での聞き取り調査ができない以上、いったん刊行計画の改訂検討は 2021 年度の間当面保留する。ただし感染状況の落ち着きを見て、現在の刊行計画変更にかかり、1 冊目の報告書刊行の目途をつける。

・現段階では年度ごとで刊行予定の報告書作成の見込みがたたないので、事業計画最後に刊行する本編の編集を意識しながら、まずは既存調査データおよび関連資料の整理

を行う。

・引き続き、部会の活動は続け、刊行計画見直しを保留している間は市史研究への執筆、投稿を行う。



民俗調査報告書は 2021 年度より 8 年連続で 8 冊を出す計画となり、困難である。隔年刊行であっても無理な計画であることから、民俗部会内では刊行計画の見直しをこれまで検討してきた。

9 冊目の民俗調査報告書が 2031 年度、本編が 2032 年度と連続しての計画も当初より難しいものと想定していた。

したがって今後の見通しとして

合計 9 冊の報告書を統合して 3 冊程度に絞る。その上で 1 冊目は現在準備している「木更津地区の民俗」に他地区の調査成果を加えてものをあわせて 2023 年度に刊行できるよう調整をしたいと考えている（ただし感染状況を考慮する必要がある）。

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	考古部会	部会長名	加藤修司
-------	------	------	------

令和2年 1月から 令和2年 12月までの 実施内容・進捗状況	1 旧石器時代 金二矢台遺跡、二重山遺跡の遺物実見、原稿執筆中 2 縄文時代 現在、資料調査中 3 弥生時代 弥生時代を含む遺跡は現在までの調査では 84 遺跡、内、遺跡内容が記載された文献が存在するもの 55 遺跡、掲載予定も 55 遺跡の見込み。現在までに以下の 22 遺跡のデジタル原稿（本文・挿図・図版）が完了。枚数は 157 ページ。 大山台、山伏作、中郷作、鹿島塚 A、鹿島塚 B、庚申塚 A、庚申塚 B、野焼 A、野焼 B、大畑台、天神前、四房、東谷、山神、中越、マミヤク、井尻、内屋敷、山王台、高砂、芝野、菅生 4 古墳時代 （1）古墳 1（重要古墳） ・金鈴塚古墳石室の三次元計測およびデータ整理（本間委員 6・7 月）『木更津市史研究』第 4 号に原稿執筆（本間委員 9・10 月） ・その他、金鈴塚古墳関係について現在資料調査中 （2）古墳 2（その他の古墳） 現在までに以下の 8 古墳群（古墳）の原稿本文が完了、内デジタル原稿（本文・挿図・図版）まで完了したのは 59 ページ。 関田塚古墳群、高千穂古墳群、俵ヶ谷古墳群、祝崎古墳群、清見台古墳群、清水谷古墳、浜ヶ谷古墳、浜清水古墳 （3）集落関係 マミヤク遺跡他 17 遺跡（遺跡名省略）の原稿本文のみ完了、枚数は約 70 ページ。現在デジタル原稿編集中 5 奈良・平安時代 現在までに以下の 21 遺跡のデジタル原稿が完了。 枚数は 129 ページ 下時田、下野洞、玉ノ谷、金二矢台、山王台、山下製鉄、山神巡礼街道 1、巡礼街道 2、上ノ山 A、上ノ山 B、上名主ヶ谷窯跡石神横穴群、銭賦、南羽鳥、二重山、堀ノ内台、堀ノ内台（2）野洞。以下の 7 遺跡については原稿本文のみ完了、約 70 ページ 久野、沢間 1、中田 A、俵ヶ谷、マミヤク、小谷、花山 6 古代人骨 諏訪谷横穴墓出土人骨の整理作業を実施 11 月でクリーニング作業が終了。現在鑑定中、細かな年齢は今後分析予定。また、性別については現段階で一定の判別はできているが、今後の詳細な分析で逆転することがあるので報告省略。
---------------------------------------	---

	4号墓 1号人骨 (四肢骨の形態から推定) 未成人 2号人骨 (大腿骨骨頭直径から推定) 未成人 5号墓 1号人骨 (下顎骨の形態から推定) 壮年 鍾体 未成人 2号人骨 熟年2体 (うち1体女性 (眉弓から推定) 鍾体 3号人骨未鑑定 人骨番号不明 成人 (壮年? 大腿 Fossa) 壮年 1号人骨? 壮年 (中世、銭から11世紀くらい?) 6号横穴 1号人骨 (四肢骨) この人の? 鍾体 未成人 3号人骨 鍾体 4号人骨 未鑑定 5号人骨 未鑑定 6号人骨 (四肢骨の形態から推定) 鍾体 7号人骨 成人 鍾体 未成人 7号横穴 1号人骨 鍾体 2号人骨 3号人骨 未成人 8号横穴 1号人骨 成人 2号人骨 未鑑定 3号人骨 未鑑定 6号人骨 未鑑定 *鍾体の分析を予定 (DNA 分析) 7 中世 (1) 資料作成 ①中世遺跡主要データ一覧表の作成 ②近世遺跡 // ③中世石塔 //(実測・拓本等含む、本間委員と共同、継続中) ④中・近世塚 //(伴う石塔調査含む、継続中) ⑤道標の分布と銘文 //(現在継続中) (2) 字切図の作成 古い土地宝典から市街化された地域を含め、市内全域の 1/10,000 白図に転写 (3) 要害城跡縄張図の作成 市内城郭の内、唯一不完全なままであった要害城の再踏査と 縄張図の完成 (4) 原稿執筆 ①城郭 現在継続中 ②中世遺跡 準備中 8 石造物 中里地下壕、市内出土須恵器の三次元計測およびデータ整理 (10月)
--	---

	9 墨書土器 奈良・平安時代遺跡報告書からスキヤニング開始、掲載方法について協議中
これまでの取組に係る 課 題 点 ・ 懸 案 事 項	(1) 発掘調査報告書からスキヤニングした遺構、遺物のデータの多くはモノクロであり、今後できるだけカラーに変更したい。遺構についてはデータの交換（カラースライド等）、遺物については再撮影を含め実施していきたい。 (2) 郷土博物館や潮見作業所に展示、所蔵されている遺構データ、遺物の現物を速やかに活用できるような体制を事務局で整えていただきたい。特に今後、郷土博物館との連携が必要となると思われる、事務分掌として市史担当窓口を明確化していただきたい。
令和3年1～3月及び 令和3年度の活動計画	(1) 遺構データや遺物の抽出など、関係委員が複数集まって効率的に作業を実施する予定であったが、新型コロナの影響とそれに伴う活動日数の制限から、当面の間不可能である。 (2) 自宅での活動、オンラインでの原稿の授受、協議が続くと想定される。遺跡数が極めて多い古墳時代、奈良平安時代については担当委員の原稿が完成次第、部会長までメールで送信してもらい、部会長が自宅でデジタル化作業を実施しており、今後も当面継続する。(但し、デジタル化作業は完成原稿1遺跡につき2～4回分の活動となっており、活動回数が制限されている現在では進捗状況は良好ではない。)

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	古 代	部 会 長 名	河 名 勉
令和 2 年 1 月 から 令和 2 年 12 月 までの 実施内容・進捗状況	令和 2 年 年 1 月 1 9 日 古代部会第 3 1 回		
	・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『延喜式』望陀布・上総布等、『続日本紀』天平 1 8 年 9 月条等 ・将門記の掲載方法について ・木更津市史編集部会調査等進捗報告について		
	2 月 2 3 日 古代部会第 3 2 回		
	・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『延喜式』上総細布・望陀布・諸国年料雑物等 『続日本紀』天平勝宝元年 6 月条・天平勝宝元年 8 月条等 ・将門記の掲載方法について ・進捗状況の確認と令和 2 年度の作業計画（案）		
	6 月 2 1 日 古代部会第 3 3 回		
	・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『日本三代実録』・俘囚について 『続日本紀』天平宝字元年 5 月条・天平宝字元年閏 8 月条等 ・撰関期古記録の扱い方とカード作成 ・進捗状況の確認と作業計画		
	7 月 1 9 日 古代部会第 3 4 回		
	・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『左経記』・『小右記』・『扶桑略記』等、 『続日本紀』天平宝字 3 年 9 月条・天平宝字 3 年 1 1 月条 『小記目録』の記事について		
	8 月 3 0 日 古代部会第 3 5 回		
	・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『応徳元年皇代記』・『小右記』・『日本紀略』等 『続日本紀』天平宝字 5 年正月条・天平宝字 5 年 1 1 月条等 ・「平忠常の乱と美濃」「平忠常の乱と甲斐」について		
	9 月 2 0 日 古代部会第 3 6 回		
	・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『山槐記』・『諸道勘文』・『小右記』等 『続日本紀』天平宝字 8 年 4 月条・天平宝字 8 年 1 0 月条等		
	1 0 月 2 5 日 古代部会第 3 7 回		
	・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『日本紀略』・『小右記』・『小記目録』等 ・オトタチバナヒメ伝説と會部考 ・『応徳元年皇代記』について ・永島福太郎「奈良の皇代記について」 ・望陀郡・畔蒜郡の郷の比定図を中心に		

	1 1 月 2 2 日 古代部会第 3 8 回 ・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『日本紀略』・『小右記』・『小記目録』等 ・『万葉集』「馬来田の嶺ろ」二首の検討 1 2 月 2 7 日 古代部会第 3 9 回 ・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『小右記』・『応徳元年皇代記』・『左経記』等 ・『万葉集』「防人歌」一首の検討 ・上総国の牛牧 ・オトタチバナヒメと穂積氏 ・木更津市史編集部会調査等進捗報告（令和 2 年）
これまでの取組に係る 課 題 点 ・ 懸 案 事 項	① 『木更津市史 史料編 古代』（仮称）の「原稿作成における諸注意」（第一版）を、現在までの入稿原稿の作成作業を踏まえて、作成する必要がある。 ② 『木更津市史 史料編 古代』（仮称）の構成を検討する必要がある。現在、凡例・資料目次・古代資料・資料解説程度にとどまっている段階である。 ③ 作成した原稿をどのように提出するか、具体的に詰めていく必要がある。
令和 3 年 1 ～ 3 月及び 令和 3 年度の活動計画	古代史料編の活動計画案は、次のとおりである。 1 年 目（平成 2 9 年度） 採録史料の選択作業 2 年 目（平成 3 0 年度）～ 5 年 目（令和 3 年度）入校原稿の作成作業 （採録史料を原史料から作成し、内容を検討し、採録範囲と頭注の作成）。「史料」の解題作成。 6 年 目（令和 4 年度） 校正作業。 令和 3 年 1 ～ 3 月は、入稿原稿の作成作業の 3 か年目となる令和 2 年度分を継続して進める予定である。 令和 3 年度は、入稿原稿の作成作業の 4 年目となる。また、「資料カード」が用意されたので、平成 3 0 年度・平成 3 1（令和元）年度分・令和 2 年度分も平行して作成作業を進める。

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	中世史部会	部会長名	滝川恒昭
令和２年　１月から 令和２年 12月までの 実施内容・進捗状況	本年実施した主な調査としては、新型コロナウイルス感染拡大直前に実施した 2/3 東大阪市　専修寺文書（里見氏・岩槻太田氏）関係文書調査 2/4～5　天理大学附属天理図書館　調査 が挙げられるが、以後は感染拡大が増加する一途のため、主たる調査対象の、個人宅・公・私・大学図書館・博物館・文書館等はすべて閉館・制限開館という状況となり、事実上通常の調査は困難となっている。 そのため現在では、それぞれ各自において、部会で定められた時代区分・対象に該当する史料を発見・確認するため 東京大学史料編纂所・国立公文書館内閣文庫・国立国会図書館・国文学資料館・国立歴史民俗博物館をはじめ各種史料保存機関・大学図書館等が公開している膨大なデジタル資料を検索する作業が中心とならざるをえず、現在はそのデーターをそれぞれで蓄積・整理しているところである。		
これまでの取組に係る 課 題 点 ・ 懸 案 事 項	当面はこのような作業を継続していくしかないが、デジタル資料は、著作権等の関係ですべてが公開されているわけではなく、機関によってはごく一部にとどまっているところも多い。 ただこのような状況が続いていく限りにおいて、現状では一番有効かつ現実的な調査方法であり、当面はこの方法が主力とならざるを得ない。		
令和３年１～３月及び 令和３年度の活動計画	本年度実施できなかった、東海地区の史料保存機関（西尾市岩瀬文庫）、刈谷市立中央図書館、刈谷市立歴史博物館・豊田市立図書館における調査の実施をめざしたい。特にこのなかには本市中世編に関わる新出未公開史料の情報もあるだけに、コロナ感染が落ち着いたのちには、最優先で取り組みたいと考えている。 継続してデジタル資料の検索と、そこでは未公開とされている資料の調査。 富津・木更津・君津市内の寺社・個人宅における古文書・金石文調査の実施。		

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	近世部会	部会長名	小関 悠一郎
-------	------	------	--------

令和 2 年 1 月から 令和 2 年 12 月までの 実施内容・進捗状況	令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の甚大な影響により、部会としての活動が大きく制約され、3 月以降に想定していた部会打合せを開催することができず、史料調査についても限定的な実施とせざるを得なかった。そのため、市内の旧家等の史料所在確認調査については、計画通りに実施できなかった所が多く、調査・編集作業に遅れが生じている。 令和 2 年度のこうした状況下で実施した近世部会の主な活動は、以下の通りである。 高柳高木家文書の目録作成 鎌足地区の史料調査打合せ 鎌足公民館所蔵史料閲覧調査 安西家（草敷）、田丸家（伊豆島）ほか旧家の訪問調査 鳥海家文書（井尻）の目録作成（終了） 下烏田区有文書・諏訪家（下烏田）所蔵史料の閲覧・撮影 佐久間家文書（袖ヶ浦市郷土博物館）の閲覧・撮影 林家（請西）所蔵史料の閲覧・撮影 請西地区の旧家訪問調査 また、大澤廉也家文書・鈴木三郎家文書については、史料翻刻作業を行い、継続中である。作業にあたっては、ボランティア調査員の協力を得て行い、今後も順次、整理が済んだ史料の翻刻を依頼する計画である。
これまでの取組に係る 課題点・懸案事項	コロナ感染状況による史料調査・整理作業の進捗に遅れが生じ、令和 3 年度の進捗についても十分見通しが立てられない。 調査・編集に必要な諸作業を一層推進するためには、専任の嘱託職員等が必要であり、ぜひご配慮願いたい。 収集資料・データの保存について、市としての本格的検討が必要。
令和 3 年 1 ～ 3 月及び 令和 3 年度の活動計画	令和 3 年 1 ～ 3 月の活動については、新型コロナウイルス感染症の影響により、史料調査の実施は困難になることが予想される。したがって、調査済史料の解説および調査済史料の目録作成を進めることを中心に活動することとする。 令和 3 年度の活動計画について、新型コロナウイルス感染症の影響により、特に史料調査及び整理作業については、現段階では十分に具体化できない。したがって当面の間は、調査済史料の解説作業・目録作成作業を進め、状況が改善した段階で、部会打合せを行い、史料調査および編集スケジュールについての計画の具体的な再検討を行うこととする。

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	近現代部会	部会長名	池田 順
-------	-------	------	------

令和2年 1月から 令和2年 12月までの 実施内容・進捗状況	1) 機関・団体等調査 ①千葉県文書館 新聞の木更津市域に関する記事の選定・撮影等を行った（6割程度終了）。撮影した記事のタイトル・概要のエクセル入力を行った（8割程度終了）。 ②木更津市役所 所蔵資料の目録作成・撮影を行った（2割程度終了）。 ③旧畑沢土地区画整理組合 組合資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（9割程度終了）。 ④江川漁業協同組合 組合資料の目録作成・撮影を行った（終了）。 ⑤木更津漁業協同組合 組合資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（3割程度終了）。 ⑥木更津第一小学校 学校沿革誌等の撮影を行った（3割程度終了）。 (2) 家文書調査 ①鈴木博雄家（下郡） 資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（8割程度終了）。 ②石井徳亮家（矢那） 資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（終了）。 ③菱田忠義家（富津市） 資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（3割程度終了）。 ④平野尚家（大寺） 近現代関係資料の撮影を行った（終了）。 ⑤曾根善範家（岩根） 資料（日記）の撮影を行った（8割程度）。 ⑥高木泰子家（高柳） 資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（終了）。 ⑦善場稔家（下郡） 資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（終了）。 ⑧影山經天家 資料の撮影を行った（終了）。 ⑨松本まさこ家・松本幼子家 松本英子関係資料の撮影を行った（終了）。 ⑩加藤弘典家（矢那） 資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（3割程度）。
---------------------------------------	--

	(3) 建物調査 上烏田鈴木茂家・矢那加藤弘典家などの建物調査を実施した。
これまでの取組に係る 課 題 点 ・ 懸 案 事 項	新型コロナ感染拡大の影響を受け、活動回数を十分確保できず、安藤小平家（岩根）・鈴木茂家（上烏田）・伊藤川魚店（新田、新規借用分）など、借用・搬入済みの資料で、整理に着手できないものがある。聞き取り調査も実施できなかった。 木更津市役所文書は大量であるため、目録作成・撮影を効率的に進めるため、旧千葉県史料研究財団がマイクロ撮影した同文書の複製資料を、千葉県文書館から借用できるよう文書館と交渉してもらいたい。
令和３年１～３月及び 令和３年度の活動計画	①千葉県文書館で、新聞の木更津市域に関する記事の選定・撮影等を行う。 ②木更津市役所文書の目録作成・撮影を行う。 ③旧畑沢土地区画整理組合文書の撮影を行う。 ④木更津漁業協同組合文書の袋詰め・目録作成・撮影を行う。 ⑤木更津第一小学校から資料を借用し、目録作成・撮影を行う。 ⑥鈴木博雄家文書の袋詰め・目録作成・撮影を行う。 ⑦菱田忠義家文書の袋詰め・目録作成・撮影を行う。 ⑧曾根善範家資料（日記）の撮影を行う。 ⑨加藤弘典家文書の袋詰め・目録作成・撮影を行う。 ⑩安藤小平家文書の袋詰め・目録作成・撮影を行う。 ⑪鈴木茂家文書の袋詰め・目録作成・撮影を行う。 ⑫伊藤川魚店文書の袋詰め・目録作成・撮影を行う。 ⑬資料調査のためのフィールドワークや建物調査を行う。

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	民俗部会	部会長名	和田健
-------	------	------	-----

令和２年　１月から 令和２年１２月までの 実施内容・進捗状況	中央公民館にて、新宿区長はじめ対面調査(２月上旬) (田村、玉井、和田) 新宿区の社会組織、もともとの町なみに関わる聞き取り、商店街での 商売に関わる聞き取りなど 下郡地区を中心とした芸能調査(９月) (田村) 今年度、祭礼はほとんど中止となり聞き取りは難しかった。 その他部会員は新型コロナウイルス感染拡大による状況で対面調査 は行われなかった。
これまでの取組に係る 課題点・懸案事項	対面聞き取り調査については、現在の状況では、進捗させることは難しい。 今後の課題もまずは感染が収まらない限りは、刊行計画そのものを大きく変える必要がある。
令和３年１～３月及び 令和３年度の活動計画	見通しは立たない。いちから刊行計画の見直し検討を図ること、また 市史研究への積極的な投稿ができるように部会内で検討することが 重要と考える。 これまでの木更津（および君津郡関係）行政刊行物に見られる民俗慣 行、生活習俗に関わる記述を拾い、まずは市史研究で紹介するのがよ いのではないかという話は部会員と協議している。

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	自然部会	部会長名	山田 真
-------	------	------	------

令和2年 1月から 令和2年 12月までの 実施内容・進捗状況	環境分野 ・資料調査・データまとめ 木更津市の気象データ、干潟の底生生物調査データまとめ終了 ・執筆 (資料編) 木更津市の気象・大気, 進捗度 95% (内容は完成, 様式や目次確定後にそれに合わせて修正すれば完成) (資料編) 干潟の底生生物, 進捗度 95% (内容は完成, 様式や目次確定後にそれに合わせて修正すれば完成) (資料編) 木更津市の水環境, 進捗度 50% 地学分野 ・資料編について ①過去の文献からのデータ 露頭位置、地質柱状図、産出化石の構成などの収集はほぼ完了した。 ②テフラについて 下総層群下部についてはほぼ終了した ・市史・本編について 第1節木更津市の地形、第2節木更津市の地質について原稿の執筆を終え、査読者の橋本 昇氏へ送った所、多くの指摘を受けた。 現在、その指摘を受けた部分について修正中であり、本年度末までに完了する予定である。 また、第3節木更津市の大地の生い立ちについては大枠の構想中であり、本年度末までには下書き原稿をつくる予定である。 動物分野 ・木更津市のバッタ目について 資料集の原稿約7～8割完成 636 データ、15 科 70 種（千葉県産種の約 63～68%）を確認。 地形環境と種分布の関連把握、地区別分布図作成 写真図版の作成終了 ・木更津市のカメムシ目について 資料集原稿約7～8割完成 現地調査と文献を含めたデータは 846、41 科 198 種を確認。 (木更津市のヨコバイ亜目腹吻群を除いた千葉県産の約 49%) 地形の環境と種の関係を確認、地区別分布図作成 写真図版の作成終了 ・温暖化で木更津市に侵入した昆虫 ナガサキアゲハ、ムラサキツバメ、クマゼミ、ミナミアオカメムシなどの生活史、写真 市史編さんだより 5 号に掲載済 その他の昆虫 カマキリ目、アミメカゲロウ目、ハサミムシ目、シリアゲムシ目など約2～4割終了
---------------------------------------	---

	・両生類 464 データ、2 目 6 科 12 種を確認。各種の分布図の作成終了 調査及びまとめ 7 ～ 8 割終了 ・爬虫類 2 目 8 科 14 種 365 個体を確認。ほぼ調査とまとめは終了。 ・哺乳類（コウモリ・ネズミ）の野外調査を行い、モモジロコウモリ の市内初記録、小櫃川河口干潟三角州においてアカネズミ 3 頭捕獲 ・湾岸埋立地の蝶・トンボ調査、魚釣りでの魚類調査 ・水生生物アメンボ・コミズムシ・イトトンボ類を中心に ・希少生物の記録を聞き取りと田村氏撮影写真の中に取材した。 ・ナラ枯れ被害実態観察 ・小櫃川流域ミヤイリガイ現地調査と日本住血吸虫症関連文献調査 とアーカイブ記念館を視察した。 ・調査データ一覧と種リストの編集（学名付加・配列・リスト作成・ 凡例検討・集約・データ確認・編集）。 ・市立図書館郷土資料室で（行政資料、小学校理科文集、各種県立研 究所報告書・年報、環境問題不定期刊行物等）の文献調査と文献目 録のグループ分け検討を行った。 ・県中央博図書館（千葉生物誌、千葉県植物誌 環境保全関連報告書） での文献調査 ・県中央図書館、文書館での文献調査で未調査のアセス書と市立図書 館にない近年の定期・不定期刊行物郷土資料の調査を行う 植物分野 ・県立中央博物館との植物合同調査 ナガバノスミレサイシン開花確認調査 高倉観音高蔵寺にて第一回分布図・種リスト原案提示打合せ会議 中央博にて 10/9 第二回分布図・種リスト等打合せ会議 中央博にて 12/3 第三回分布図・種リスト等打合せ会議 ・資料集原稿(種リスト・分布図)は 1 月末までに完成予定 ・補足調査と写真撮影は、3 回/週程度継続している。 ・市内の特徴的な自然風景場所 5 か所を 1 回/月撮影している。 ・巨木調査 現地調査は約 80 % 終了 ・資料集・本編写真の作成は随時継続
これまでの取組に係る 課 題 点 ・ 懸 案 事 項	環境分野 ・十分な時間が取れず、湧水と野堰に関する調査が行えていない。 地学分野 ・テフラについて とくに下総層群上部（木下層、姉崎層）および関東ローム層中に挟 在するテフラ鍵層の所在・確認が今 1 つ不十分である。 これらの地層はほとんど市街地地域に分布するため、きわめて困 難であり、いまだ確認されていない。今後も調査を続行したい。

	動物分野 ・若手委員の加入 ・資料集の執筆形式の確定（多量の情報掲載、県立中央博合同植物調査報告書との整合性を考慮） ・地形図と地区別地図などデザイナーへの依頼、 ・データ一覧の形式の確定 ・調査地地点表、文献目録、写真データの編集方針について改善の余地がある。 植物分野 ・県立中央博物館作成の植物分布図にリンクした、写真集を作成中、デジタルコンテンツと刊行物での採用をお願いしたい。
令和3年1～3月及び 令和3年度の活動計画	環境分野 ・湧水、野堰現地調査の実施 ・（資料編）木更津市の水環境執筆（3月末完成を目途に） 動物分野 ・資料集形式の確定 ・新形式による爬虫類、両生類、バッタ目、カメムシ目の資料集原稿執筆 ・バッタ、カメムシ目、その他の昆虫の補完野外調査 ・小櫃川河口三角州の昆虫の補完調査 ・資料集原稿の査読、校正など ・県文書館、中央図書館、市立図書館で郷土関連資料文献調査の継続 ・調査地点解説、現地調査データと写真データの編集作業の継続 ・哺乳類の補足現地調査（ニホンザル、キョン、シカ、イノシシ、コウモリ類他） 植物分野 ・3月末までに資料集査読完了予定 ・植物写真集作成 ・9月より巨木調査再開予定 ・風景写真撮影、1回/月令和3年度未完了予定